

(様式2)

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育方針・学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇教育方針や学校経営に関する項目で、「教育方針や指導に共感できる」についてA「よくあてはまる」B「ややあてはまる」という肯定的評価が保護者は85.1%と比較的高い。また「学校は人間としての基本的な倫理観や規範意識を身につけさせようと努めている」（保護者80.7%、生徒80.2%）と「学校は自主性・創造性のある生徒を育てようとしている」（保護者83.2%）は評価が高い。一方、「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている」（保護者69.6%、生徒58.0%）はやや低くなっており、「全職員が学校経営や教育活動に創意を凝らし魅力ある学校づくりに取り組んでいる」（保護者64.6%）は「わからない」という回答も21.1%と高い。個に応じた丁寧な指導と、課題研究発表会や学校祭、教育週間等のさまざまな機会をとらえて学校の様子を保護者に理解していただく必要がある。</p> <p>◇教職員に関する項目では、「子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる」（保護者87.6%、生徒85.8%）は肯定的評価が高いが、「子どもが相談したときには親切に応じてくれる」（保護者68.9%、生徒63.6%）はやや低い。学校や教職員への信頼を高めるため、今後も、生徒の学力充実や進路実現に向けた指導を、きめ細かに丁寧にすすめていきたい。</p> <p>◇学校独自項目の中の、「地域の人々や中学校等に学校の教育方針や教育活動の現状を周知している」「地域の学校として、地域に評価されるような教育活動や行事を行っている」については、「わからない」が28～34%であり、今後も地域での活動や広報の工夫が必要である。</p> <p>◇今、教員の長時間労働が問題となっているが、本校も例外ではなく、職員の「働き方改革」を図っていく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇特色ある学校づくり（魅力ある学校）</p> <p>◇開かれた学校づくり（地域との連携）</p> <p>◇職員の「働き方改革」の推進</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>◇職員会議や各種委員会、教科研究会等での適切な現状把握と共通理解に基づく改善と実践</p> <p>◇分掌内の仕事分担の効率化と、分掌間の連携</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業及び諸行事の公開。SSHや総合的な学習の時間の取組・発表等の公開。</p> <p>(2) 授業研究会を始めとする職員研修。</p> <p>(3) 保護者懇談会及び学年懇談会。小中学校との連携。</p> <p>(4) SSH事業における小中学校との連携。</p> <p>(5) 行事の精選</p> <p>(6) ノー残業デーの推進</p>	<p>(1) 生徒、教員による授業アンケート・評価。</p> <p>(2) 新聞等記事掲載数や地域の評価と期待。</p> <p>(3) 普段の生活の姿の観察。生徒の学習に対する興味・関心の高まり。教員の自己評価、授業評価。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1) PTA総会、学校評議員会、SSH運営指導委員会、岐阜県ふるさと教育週間、PTA高校見学会等での授業公開。文化祭・体育祭の一般公開。</p> <p>(2) 新聞、市広報等への記事の提供。</p>	<p>① 保護者や地域からの学校への関心や期待。生徒の満足度や進路結果。</p> <p>② 校内外で活躍する生徒の姿。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>

<p>(3) 授業アンケートの実施。他教科の授業参観や教員の相互評価の実施。学校行事、教育相談、情報教育、ホームルーム運営に関する校内研修会の実施。</p> <p>(4) 各分掌主任による連絡会の定期実施。</p>	<p>③ 基礎学力の定着</p> <p>④ 職員の時間外勤務時間の削減</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○学校の教育活動や生徒の様子について、中学校や地域の方々、保護者等への発信を増やした。</p> <p>○授業規律が確立し互いに協力し合い学習しており、その成果が期待できる。</p> <p>○教職員が熱心に研修に参加し授業改善を図り、高大接続等の教育状況を共通理解し教育活動全体に生かすよう努めている。</p> <p>○LHRの改善への取り組みにより、社会性をもち互いに協力する態度を醸成することができた。</p> <p>○安全で安心して学べる学習環境が整っている。</p> <p>○ボランティア活動など、地域での活動の機会を増やした。</p> <p>▲学習の課題や小テストについて、生徒や教員の負担及び効果を見極め、適切な分量や方法を検討していく必要がある。</p> <p>▲「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図る。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科「課題研究」や普通科「総合的な学習の時間」などの本校の特長的な取組である探究学習についてさらに深化し、HPや地域での活動等の広報活動を充実させる。 ・変化する教育状況や生徒の実状を踏まえ、目指す学校像・育成する生徒像にたいする共通理解を深めて、その実現に向け授業をはじめとする教育活動全体の改善を図る。 ・さらに学校の魅力を外部に伝える努力を続ける。 ・「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図るため、課題や小テストの分量や方法の検討、会議の効率化、部活動の在り方等について検討していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月24日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、学校が地域や中学校、保護者などへ恵那高校の魅力や実態を伝えるよう努力していることがよく分かった。今後とも開かれた学校づくりに努めていただきたい。 ・留学制度「恵那 地球塾」の創設は画期的である。これによって学校の魅力が更に高まることを期待している。 ・ボランティアに参加する生徒が地域で好印象を与えている。リーダーとして率先して活躍する姿に感銘した。 ・「働き方改革」についても意識をもって取り組んでいるようだ。引き続き管理職を中心に取り組んでほしい。
